

令和6年度感染症対応力向上事業 訪問支援

施設名：特別養護老人ホーム千歳園
施設名：広島赤十字・原爆病院

施設長氏名：
ICN 氏名： 山本 浩之 山本 浩之

<取り組み前>

<取り組み後>

施設

定員は養護50名、特養50名、計100名の施設として開設しました。バス通りに面しており、交通の便もよく、自然豊かな場所にあるため、折々の季節を感じることができます。

施設とスタッフの写真



感染症対応力向上事業 参加の動機

日常からのスタンダードプリコーションの不十分さ、清潔・不潔への意識が乏しく、交差感染などの感染症発生リスクが高いと感じていました。実際に、現状をみていただき評価してもらい、改善点を明確化させ、職員の意識改革へのアプローチのきっかけになればと思い参加させていただきました。

実施日	1回目 令和6年11月11日(月)	14:30~16:00
	2回目 令和6年12月11日(水)	14:30~15:30

ラウンドから見えた課題

ラウンドを通じて、見てみぬふり、誰かがやるだろうという意識であったり、どういう風に改善していけばいいのかが分からないという現状がありました。また、吐物処理物品の場所の把握も全職員へきちんと発信できておらず、一部職員のみが把握しているという現状がありました。

取り組み内容

- ①保温庫の管理方法の見直し
- ②ホールの水回りの清潔保持
- ③どのボトルの消毒が手指用なのか環境用なのか明確にし、職員に周知
- ④歯ブラシによる交差感染発症のリスクの見直し
- ⑤吐物処理物品の見直し、管理方法の見直し

取り組み成果

- ①1日1回保管庫内を清掃し、庫内を乾燥させる時間を設けた。タオルが直接庫内に触れないようビニール袋の使用を開始した。
- ②水回りには最低限必要な物品のみ設置し、整理整頓した。
- ③手指消毒用、環境消毒用、それぞれボトルにはテプラで中身を明記し、職員にも周知した。
- ④歯ブラシの毛先の向きを統一した。
- ⑤吐物処理物品の内容や保管場所を見直した。

施設：参加しての感想

感染対策を見直す際、誰でもいつでもどこでも同じ対応ができるということを意識して行うことの必要性を認識する機会となりました。一部の職員、気づいた職員だけがするのは、継続的な実施はできないため、きちんと可視化し、分かりやすくするなどの工夫が大切になると感じました。また、対策の根拠の説明や、今まで行ってきた対策に必要な対策、不必要な対策なども分かりやすくご指導していただきました。このことで、職員への意識改革への動きにもつながり、「今後も継続していきたい」などの声もありました。講義では、標準予防策の重要性の理解を深めることができました。また、おむつ交換時などの交差感染についてもビデオ視聴を交えて説明して下さり、理解しやすくなっていました。今回のことを活かしながら、今後も感染対策を実施していきたいと思います。

ICN：講師としての感想

講義の聴講や演習への参加姿勢、挨拶やラウンド時のやり取りなど、職員の皆様が丁寧に接してくださいました。感染対策には組織風土が影響するともいわれており、良い環境環境は今後感染対策を周知していくうえで重要な要因になると感じました。施設管理者の方々の理解と協力、バックアップなどもあり、それらがさらなる後押しになると感じました。11月の1回目の訪問から1か月後の2回目の訪問の際には、ほとんどの課題が改善されており、感心するばかりでありました。感染予防委員の方が中心となり、改善策を推進されたとのことであり、「この度のラウンドは現場を見直す良いきっかけとなった」「みんなで共有して継続していきたい」という言葉も聞かれ、大変嬉しく感じました。今後も継続して定期的に訪問に来てほしいとのお依頼をいただき、大変嬉しく思いました。

写真



ビニール袋にいれて！

